

講義名	研究演習（人）				
講義コード	15402	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 月曜日 5時限
担当教員	山本 勝巳	サンパリング・コード			

学部・学科	演習分野
人間社会学部・観光学科	英語学・英語音声学・対照言語学

概要説明
本演習では英語学・対照言語学を中心とした研究演習を行います。 英語学では、英語を対象として、文字・表記・語彙・音声・音韻・文法・意味等について研究します。 対照言語学では、英語を言語の一つとして捉え、まったく異なる語族に属する日本語等と比較し研究します。日本人受講生にとつての母語である日本語・留学生にとつては外国語である日本語と英語を比較研究することになります。素材として、就職および将来に役立つ観光英語の視点からも研究します。 さらに「観光英語」の関する英文資料を読み、分かりやすい資料を作成し、発表することで、観光英語に関する知識を増やし、企画立案につなげることで、将来の活動につなげることを目指します。 英語学や対照言語学、観光英語等の中からさらに、受講生がそれぞれに興味を持てるテーマを選んで研究していきます。 研究演習 では、このうち「観光英語」の関する英文資料を読み、分かりやすい資料を作成し、発表することで、観光英語に関する知識を増やし、企画立案につなげることで、将来の活動につなげることを目指します。

主な卒業論文のタイトル
まだ卒業生を出していません。

教員よりの要望
無断欠席はしないでください。相手の意見に耳を傾け、事実に基づく議論ができる人に参加してほしいと思います。

選考方法
研究演習申込書および面接によって選考します。 必ず事前に個別ガイダンスを受けてください。

評価方法	
演習での発表および提出課題、出席状況、平常点等による総合評価	
教員英字氏名	研究室
YAMAMOTO Katsumi	研究棟I 105研究室
最終学歴	
神戸市外国語大学大学院英語学専攻修了	
学位	
文学修士	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
・『Moodleのログから見たコロナ禍における利用者の学び』、『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』34 (1) 75-86 2021年 ・『Moodleのログから見た利用者の学び』、『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』31 (1) 25-36 2018年 ・『流通科学大学におけるMoodleを利用した多言語学習環境の構築と運用』（共著）『流通科学大学 高等教育推進センター紀要』(2) 15-25 2017年 ・『流通科学大学における英語教育フレームワークの構築と実践』（共著）『流通科学大学教学支援センター紀要』49-60 2014年 ・『フレンド型英語学習環境の構築と実践』（共著）『流通科学大学論集—人間・社会・自然編—』24(2) 33-37 2012年 ・『小中学校教員の発音指導に対する意識 アンケート調査による考察』（共著）『LET関西支部研究集録』(13) 57-78 2011年 ・『単語境界明示化に關する音響的手がかりについて（文献調査）』、『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要 (12) 299-302 2009年 ・『発音指導における説明の在り方』、『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第7集 1-12 2009年 ・""A reconsideration of word segmentation cues of Japanese learners of English."" 『関西福祉大学研究紀要』(11) 83-87 2008年 ・『日本人の英語イントネーションとその容認度-EILの観点に基づく指導への提言』（共著）『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第6集 1-12 2008年 ・『日本人の英語発音：イントネーションの容認性』（共著）『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第6集 13-23 2008年 ・『日本語話者の英語発音・容認性に関する実証研究。』（共著）『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第5集 21-31 2007年 ・『英語母語話者が単語境界明示化に用いる音響の手がかりに関する再検討（事例研究）』、『関西福祉大学研究紀要』(9) 193-197 2006年 ・『日本人の英語発音の容認性-EILの観点による実証研究。』（共著）『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第5集 3-10 2006年 ・『日本人英語学習者の英語発話に見るリズム構造の特徴に関する再検討』、『関西福祉大学研究紀要』(8) 181-184 2005年 ・『国際化に対応した英語の発音教育について』（共著）『関西国際大学コミュニケーション研究所コミュニケーション研究叢書』第3集 2004年 ・『中国語話者による英語発話の時間制御に関する一考察』（共著）『神戸学院女子短期大学紀要』(35) 147-151 2002年 ・『スピーチサイクリングタスクの概念とそのMacintoshプラットフォームへの実装について』、『関西福祉大学研究紀要』(5) 113-118 2002年	
趣味・特技	
コロナ禍での日常生活となったこの数年対人関係が希薄になった分、PCとの接点となるキーボード沼にはまっています。	
所属	
人間社会学部観光学科	
所属学会	
日本音声学会・日本音響学会・外国語教育メディア学会・ことばの科学会・全国英語教育学会・大学関西英語教育学会・英語教育学会・Acoustical Society of America	
専門分野	
英語学・実験音声学	
担当科目	
英語A・TOEIC準備・ホスピタリティ英語・英語発音クリニック・海外語学研修・言語と社会・基礎能力（パソコンの基礎）・基礎能力（コミュニケーションの基礎）・教養特講（英語へのいざない）・専門基礎演習・研究演習・教養特講（観光学へのいざない）	
備考	
実務経験の有無及び活用	